

研究会記録

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部翻訳文化研究会 公開日: 2024-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000535

【研究会記録】

- 第1回例会（2005・10・20）
ロシア語訳『奥の細道』について 田村 充正
- 第2回例会（2005・11・15）
Gabriel García Márquez, *Memoria de mis putas tristes* と
川端康成『眠れる美女』 花方 寿行
- 第3回例会（2005・12・15）
朱天心「古都」をめぐって 桑島 道夫
- 第4回例会（2006・1・26）
〈翻訳〉の政治性
——戦時期における朝鮮文学の翻訳をめぐって 南 富鎮
- 第5回例会（2006・2・9）
Michael Palmer との共訳による野村喜和夫の作品紹介 山内功一郎
川端康成『雪国』の「底」の訳をめぐって——隠喩の翻訳をめぐる一考察
今野喜和人
川端文学研究会第33回大会シンポジウム参加（於・武蔵野大学、2006・6・18）
今野喜和人、花方 寿行、桑島 道夫
- 第1回講演会（2006・10・5）
旅と翻訳 野村喜和夫
- 第6回例会（2006・11・30）
よしもとばなな『ハゴロモ』 トーマス・エゲンベルグ
- 第7回例会（2007・2・22）
原作と映画の微妙な関係——『トリスターナ』をめぐって 花方 寿行
- 第2回講演会（2007・3・15）
『伊豆の踊子』翻訳を考える
——日英翻訳における問題と傾向 アンガス・ターヴィル
- 第8回例会（2007・11・7）
中国における戦後日本文学の受容 桑島 道夫
- 第3回講演会（2008・2・15）
グローバル資本主義時代の文学
中国社会科学院外国文学研究所所長・陳衆議（通訳・桑島道夫）

中国における日本の現代文学——大江健三郎を中心として

中国社会科学院外国文学研究所研究員・許金龍（通訳・桑島道夫）

第9回例会（2008・3・21）

小説と映画のあいだ——〈山の音〉を聞かない信吾 田村 充正

第10回例会（2008・10・22）

『ミツバチのささやき』論

——『キャットピープルの呪い』と『アラバマ物語』との関係において

花方 寿行

第4回講演会（2008・12・12）

コミュニケーションなき結婚

楊 逸

第11回例会（2009・1・22）

『ミンゴ・レブルゴの歌』からみた15世紀末カスティージャ王権

大原 志麻

ポール・ヴァレリーの翻訳体験をめぐって

——《Variations sur les *Bucoliques*》を読む

安永 愛

第12回例会（2009・2・19）

中勘助『銀の匙』仏語訳の試み

マリー・フーシェ

第13回例会（2009・7・16）

フィリップ・ポンスと日本

安永 愛

第5回企画（2009・11・5）

よしもとばななさんとはなそう!!

第14回例会（2010・3・18）

サム・ベキンパー監督『ワイルド・バンチ』の原型としての

カルロス・サウラ監督『盗賊のための涙』

花方 寿行

川端康成「水晶幻想」と新心理主義文学

田村 充正

第15回例会（2010・5・27）

Karl Marx と Louis Zukofsky

“Animate Instruments”へと化する人間と事物をめぐって

山内功一郎

第16回例会（2010・7・22）

異文化間恋愛と「ロマンティックな恋愛」の罫

——Gertrudis Gómez de Avellaneda, *Sab* (1841) について

花方 寿行

- 第17回例会 (2010・10・7)
 フランコ期における政治と映像文化
 ——Bienvenido a Mr. Marshall を通して 大原 志麻
- 第6回講演会 (2010・12・4)
 (学内講演会)
- 新著『我的日本語』をめぐる リービ英雄
 (学外講演会)
- 日本語の人生 リービ英雄
- 第18回例会 (2011・1・27)
 サド侯爵の翻訳家としての澁澤龍彦～言葉のオルガスムと法律の不幸
 スティーヴ・コルベイ
- 第19回例会 (2011・2・3)
 長田秋濤訳『椿姫』の恋愛表現をめぐる 今野喜和人
 第7回講演会 (2011・10・27)
- 翻訳家にとって〈倫理〉とは何か 野崎 歆
- 第20回例会 (2012・7・19)
 Palmer と Petlin
- 詩人と画家のコラボレーションを通して考察される倫理 山内功一郎
 第8回講演会 (2012・11・17)
- 文学作品の映画化をめぐる 中条 省平
- 第21回例会 (2012・11・26)
 フランスにおける日本マンガの翻訳の現状 ジュリアン・ブーヴァール
- 第22回例会 (2013・1・31)
 法と歴史と真実というフィクション
- 松本清張「日光中宮祠事件」『小説帝銀事件』
 『黒い福音』を視座にして 南 富鎮
- 法の侵害か、モラルの侵犯か
 ——映画『ノスフェラトゥ』と原作『ドラキュラ』をめぐる考察
 花方 寿行
- 第23回例会 (2013・7・25)
 ロベール・バダンテールの『死刑執行』と加賀乙彦の『宣告』の死刑廃止論に
 ついてのディスカール
- デリダの1999年～2000年ゼミの第2と第3セアンスをめぐる

スティーブ・コルベイ

第9回講演会・特別企画 (2013・11・18)

(学内講演会)

母語の外に出るとということ

多和田葉子

(リーディング・パフォーマンス)

雲をつかむ言(ことば) / 雲を飛ばす音

多和田葉子+高瀬アキ

第24回例会 (2014・1・30)

ル・ボンの民族心理学の東アジアへの受容

——李光洙・夏目漱石・魯迅を中心に

南 富鎮

韓国映像文化における歴史イメージ

大原 志麻

第25回例会 (2014・6・26)

ミラン・クンデラにおける越境とローカル性

田中 柊子

第26回例会 (2014・7・31)

ポストメディアと翻訳

スティーブ・コルベイク

研究会主催講演会 (2014・12・2)

言葉と音楽の出会い

——R. シュトラウス「ばらの騎士」をめぐって 鶴間 圭 (音楽評論家)

第10回講演会・公開シンポジウム (2014・12・14)

創作と翻訳の罪と悦楽

講演者：中村文則 (作家) + 野崎 敏 (東京大学)

聞き手：トーマス・エゲンベルグ、スティーブ・コルベイク

第27回例会 (2015・5・21)

言語的主観性・間主観性と翻訳

大藪 正彦

第28回例会 (2015・7・9)

中上健次とレヴィ・ストロース

——短編連作集『熊野集』『海神』をめぐって

渡邊 英理

第29回例会 (2015・12・17)

「漢字ノ紙」を読む

——吉増剛造のメディア横断的实践

山内功一郎

戦後文学拾遺

——「夢十夜」「蜜柑」「走れメロス」の典拠をめぐって

南 富鎮

第11回講演会・公開シンポジウム (2016・3・9)

舞台にのぼる翻訳 (La traduction sur le plateau)

岩切正一郎（国際基督教大学）

第30回例会（2016・6・23）

谷崎潤一郎と翻訳——『潤一郎訳源氏物語』まで 中村ともえ

第12回講演会・公開シンポジウム（2016・11・17）

おくのほそ道を絵でたどる——蕪村から近代へ

芳賀 徹（静岡県立美術館館長）

第1回『翻訳の文化／文化の翻訳』第12号 合評会（2017・3・22）

第31回例会（2017・6・1）

黒澤明『羅生門』の受容をめぐる 今野喜和人

第13回講演会・公開シンポジウム（2017・7・28）

翻訳における愛 Love in Translation アンドレア・チェッリ

第14回講演会・公開シンポジウム（2017・12・21）

ケベック州のBDと他メディアとの連帯～音楽、映画、アニメ

シルヴィ＝アンヌ・メナール

第15回講演会・公開シンポジウム（2018・1・25）

（学部内講演会）

町田康さんを囲んで 町田 康

（学内講演会）

作家・町田康 訳す、語る、歌う。 町田 康

第32回例会（2018・6・21）

“Who will count, who will claim?”

—Michael Palmerの近作における「アンチ・エレジー」の展開

山内功一郎

古代庭園文化の受容と翻案—

—寝殿造庭園と名所の発生

袴田 光康

第16回講演会・公開対談（2019・3・4）

演劇、変わり得ることへの希望

対談：宮城 聡（演出家）＋本橋哲也（東京経済大学）

第33回例会（2019・8・8）

テレビゲーム『イース』における異世界の背景

ローベル・ロラン（慶應義塾大学商学部）

翻訳・アダプテーションに関わる法的概念・論点の整理

原田伸一郎（静岡大学情報学部）

第17回講演会 (2020・2・15)

(学部内講演会)

吉増剛造の現在

吉増 剛造

(学内講演会)

火ノ刺繍へ、火ノ刺繍カラ

吉増 剛造

第34回例会 (2020・6・18)

『源氏物語』のアダプテーション—演劇と映画の中の藤壺と明石の君

中村ともえ (静岡大学教育学部)

第35回例会 (2020・9・17)

人種差別者が書いた小説を改作することへの問い

～多様なメディアにおけるH.P.ラヴクラフト文学の展開をめぐって～

スティーヴ・コルバイユ (聖心女子大学)

第18回特別講演会～3.11に考える「翻訳」という行為～ (2021・3・11)

カタストロフの時代と『ヴェールを被ったアンティゴネー』

伊達 聖伸 (東京大学)

創作としての翻訳行為—何が伝わり、何を共有できるのか

関口 涼子

第36回例会 (2021・8・5)

「ジェニーもの」：小説『ジェニーの肖像』の少女マンガにおけるアダプテーション

ローベル柊子 (東洋大学)

『鬼滅の刃』における鬼イメージ

—伝統的イメージからの断絶と継承—

花方 寿行

第37回例会 (2021・12・23)

混濁する能—倉橋由美子「長い夢路」(1968)

原 瑠璃彦

第38回例会 (2022・3・4)

タロットカードのアダプテーション

今野喜和人

第19回特別講演会 (2022・3・18)

加藤周一と翻訳の問題：

日本の戦後知識人作品のフランス語での翻訳紹介を通して

ルボフスキ伊藤綾 (ジュネーブ大学)

第20回講演会 (2022・7・7)

(学部内講演会)

野谷文昭氏を囲んで

野谷 文昭

(学内講演会)

マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』とジェンダー
第39回例会 (2022・10・6)

野谷 文昭

ことばによる「捉え」とアダプテーション

大藪 正彦

桜木紫乃——紹介と概観

南 富鎮

第21回講演会・公開シンポジウム (2023・3・4)

多言語の中の日本語小説

平野啓一郎